

大学運動部のコーチングにおける情報の種類 と利用に関する研究

——プレーヤーに関する情報について——

森岡理右, 坂井学, 遠藤卓郎, 畑孝幸, 力野由美

Kind of coaching information and its usage for coaches of university athletic club on information of the players

Riu Morioka, Manabu Sakai, Takuro Endo*

Takayuki Hata* Yumi Rikino**

Abstract

The purpose of this paper was to investigate a demand of coaching information for university athletic club's coaches. This investigation was concerning what kind of coaching information about the players coaches necessitated, and how they used the information collected.

45 coaches of The University of Tsukuba served as the subjects. The questionnaire consisted of 321 items on physical informations, psychological informations, technical informations and circumstance and others informations.

The results obtained in this investigation were summarized as follows:

- (1) Information on player's health was necessitated especially in Physical Informations.
- (2) The coaches necessitated Psychological Informations to grasp the Psychological characters of athletes and members of clubs.
- (3) Information of knowledge and recognition about tactics, strategy, ground condition and so on were necessitated in technical informations.
- (4) Coaches should collect circumstance and others information covering wide area.
- (5) The coaches utilized most of the coaching informations that they recognized the necessity in the questionnaire.
- (6) An observation and a conversation or interview occupied most of the methods for collecting

informations.

(7) Coaches should collect different informations, depending on sport events.

(8) Experienced coaches utilized coaching informations more effectively then less-experienced coaches.

緒言

1. スポーツ情報とは

近年、スポーツや体育にかかわる論文や研究報告の中で、スポーツ情報(SPORTS-INFORMATION)という言葉が多く聞かれるようになった。1967年に成田¹⁾はヨーロッパのスポーツ情報活動を紹介し、我国においてもその活動のための早急な組織作りが必要であると提唱している。また1976年には正木²⁾が体育・スポーツ情報センター設置のための条件について研究報告を行なっている。

情報科学によれば、情報とは「発信者と受信者の間で伝達される記号とその系列のすべて³⁾」とか「人間の五感めがけて外部から送られてくるすべての刺激もしくは信号⁴⁾」と定義されているが、スポーツ情報をこれにならえば「スポーツおよびそれに関わる諸現象から人間が受け取る記号およびその系列のすべて」と定義される。

この考えに立ってスポーツ情報の領域を追求してみると、図書館学的・書誌学的な立場でいうスポーツ・ドキュメンテーションや、競技会の成果や開催日程等を告知するメディアを使ってのパブリシティ、新聞、ラジオ、テレビ等の報道、プレーヤーの指導・育成に必要な科学的知見や、指揮・統率、戦術・戦略等に関わる情報など、多岐多様にわたることが予想される。このように考えると、スポーツ情報の受け手というのは、指導者や研究者、スポーツ実践者、行政・組織等の関係者から、一般にファンと呼ばれるスポーツ非実践者にも存在するといえる。(図1)

2. コーチング情報とは

スポーツのコーチ(監督・コーチ)は、プレーヤーやチームを指導・育成し、競技面に

においても良い成績を挙げさせることを重要な仕事としている。この目的達成のためにコーチはさまざまな情報を入手し、整理し、利用している。例えば、プレーヤーのコンディション、技術のレベル、性格等を知ることや、相手チームやプレーヤーの長所、短所、戦術等に関する情報を入手することなどである。このような、コーチがその活動に際して、入手し、利用すべき情報、すなわちコーチが把握しておくべき情報を、コーチング情報と呼ぶ。

では、このコーチング情報にはどのような種類の情報が含まれるのであろうか。現実にコーチは、経験や勘、あるいは実験、測定、調査、観察等の科学的手法によって情報を集め、時や場所に応じてそれを利用し、指導、育成に役立てているであろう。そのために体力測定のためのチェックシート、あるいはスポーツマン用の性格検査法なども考案されている。しかし、コーチングに必要な情報には、プレーヤーの能力や対戦相手の分析のみならず、競技場の形状や施設のことから、気象条件に至るまで、さまざまな項目が考えられる。そこで本研究は、このコーチング情報というものを総合的にとらえ、その種類を明らかにしようとした。

コーチング情報に含まれる項目を整理、分類してみると、図2のようになると考えられる。施設などの人工的環境と天候などの自然的環境を含む環境的情報、プレーヤーや指導スタッフに関する自チームあるいは他チームの情報、人間の環境、そして、コーチング理論や大会スケジュールなどのその他の情報の3つに大きく分類できると考えられる。

今回は、これらのコーチング情報のなかでも、コーチが最初に把握しておけなければな

らない自分の指導するプレーヤーに関する情報に焦点をあてた。

目的

本研究は、コーチング情報のなかの自チームのプレーヤーに関する情報について実態調査を行ない、その種類と利用傾向を知ることによって、課外活動の一環として位置づけられる大学体育会系運動部のコーチングに必要なプレーヤーに関する情報を明らかにしようとするを目的として行なわれた。

方法

まず、プレーヤーに関する情報の分類を試みた。プレーヤーのパフォーマンスを形成するものは、心・技・体といわれる心理的適性、技能、身体的適性が挙げられるが、その他にプレーヤーを取り巻く生活の環境などの社会的要因も無視できないと考えられる。そこで、プレーヤーに関する情報を身体的側面に関わる情報、心理的側面に関わる情報、技能的側面に関わる情報、そして生活、環境、その他の情報、の4つに分類した。(図3)そして、これらの分類に基づいて項目抽出の作業を行なった。項目抽出にあたっては、指導書、資料等の検索、監督・コーチへの面接などによった。その結果、約500項目の情報抽出され、これらの項目によってプリテストを実施した。そして、最終的に321項目を選定し、本調査のための質問紙を作製した。

質問紙の形式は、321項目それぞれについて必要と思うものには○を、また特に必要と思うものに◎を記入し、同時にそれらの項目で実際に利用しているものにも回答を求めた。さらに、4つの分類ごとに情報の収集方法についても回答を求めた。

調査の対象は筑波大学体育系運動部の監督・コーチ45名とした。

調査の期日は昭和57年6月とした。

結果と考察

1. 必要度と利用度について

回答の集計にあたっては、必要かどうかをたずねたものを必要度、利用状況をたずねたものを利用度とし、○を1点として得点化した。なお、必要度の◎は2点として換算した。

1) 身体的側面に関わる情報

身体的側面に関わる情報のなかで必要度および利用度の高かった項目をみると(表1)、まず、必要度の高得点項目に「故障の有無およびその箇所」、「疾病の有無およびその箇所」といった健康面に関する情報があがっているのが注目される。以下に「背筋力」、「敏捷性の優劣」、「身長」、「体重」といった身体的能力や体格に関する情報の項目が並んでいるが、この結果から、監督・コーチにとってプレーヤーの健康状態というものが最も重要な情報となるのではないかと推察される。

利用度については、若干の順位の違いはあるが、必要度の高い項目については利用度も高くなっている傾向がみられる。必要性を感じている情報については利用するということは当然の結果ではあるが、入手しやすい情報と入手しにくい情報というように、収集方法の難しさというものも影響してくるであろう。

2) 心理的側面に関わる情報

心理的側面に関わる情報については(表2)、必要度において「リーダーシップ」、「持久性、忍耐力」、「勝利欲求」、「自己統制力」、「従順性」といった項目の得点が高くなっている。「持久性、忍耐力」、「勝利欲求」などの情報については、競技プレーヤーとして把握しておかなければならない不可欠な項目であるが、「リーダーシップ」、「従順性」、あるいは「対人的知能」といった情報については、プレーヤーとして必要な情報という考え方と同時に運動部の構成員のひとりとして把握すべき情報という考え方ができよう。例えば、陸上競技、柔道、剣道、競泳といった個

人の競技力で勝敗を争う種目のプレーヤーにとって、「リーダーシップ」や「従順性」といった情報は直接関連を持たないであろう。しかし、運動部という集団のなかにおいては欠くことのできない情報であると考えられる。このため、心理的側面に関わる情報については、当該種目のプレーヤーとして必要な項目と運動部の構成員として必要な項目というように、両面からの把握が必要になるといえる。

利用度については身体的側面に関わる情報の傾向と同様の傾向がみられる。

3) 技能的側面に関わる情報

技能的側面に関わる情報については(表3)、「技術、戦術に関する認識度」、「自己の能力に関する認識度」といったプレーヤーの知識、認識の程度に関する情報が、「タイミングコントロール能力」、「連続動作のスムーズさ」などの実際の技術発揮に関する情報よりも高い必要度を示していることが注目される。この事から、大学のトップレベルにあるプレーヤーには個々の技術の能力と同様に、あるいはそれ以上に知識、認識力といったものが要求されているのではないかと推察される。すなわち、高いレベルで競技が行なわれれば、それに従ってより効果的で合理的なパフォーマンスの発揮、そして綿密な作戦の計画が不可欠になってくるために、各種目の技術、戦術に関する深い認識や自己の能力の適確な判断といったものが重要になってくると考えられる。今回の調査対象は大学の監督・コーチとしたのであるが、これが高校、中学の運動部の監督・コーチを対象して実施した場合、どのような傾向がみられるか、非常に興味深い問題であろう。

利用度については、身体的側面、心理的側面に関する情報と同様に若干の順位の違いはあるが、必要度とほぼ対応して利用されている傾向がみられる。

4) 生活、環境、その他の情報

生活、環境、その他の情報には、上記の3

つの側面に含まれないプレーヤーの生活面や環境状態、履歴等のプレーヤーを取り巻く社会的な情報が含まれている。これについてみると(表4)、上位20項目の中だけでも多様な情報が必要とされていることがわかる。「クラブにおける人間関係」、「一般的履歴」といったクラブ管理に必要な情報、「用具の使用、管理状態」、「悩みについて」といったプレーヤー自身のプレーに直接関係してくる情報、あるいは「進路について」、「大学での学業について」といった大学運動部の指導者として把握しておかなければならない情報、といったように非常に多岐多様なものがあげられている。このように身体的、心理的、技能的側面に関わる情報以外にも多くの情報を必要と感じていることが推察されるが、各項目の得点について他の3つの側面と比較してみると、全体的に低くなっている傾向がみられる。この結果によれば、生活環境、その他の情報については身体的、心理的、技術的な側面の情報に比べて、それ程必要性を感じていないという解釈がされるが、この点についてはさらに深く究明する必要がある。

2. 情報の収集方法について

監督・コーチがプレーヤーに関する情報を入手する際、さまざまな方法がとられる。そこで実際にどのような収集方法が用いられているのかをたずねてみた。その結果を表5に示した。

各側面とも「観察によって」、「プレーヤーとの会話、面接など」の方法が最も多くなっている。自身による観察やプレーヤーとの会話、面接などといった方法は、測定や調査などの方法に比べて簡便であり、日常的に行なえる方法である。しかし、必要な情報を正確に入手するためには適確な観察力、プレーヤーとの円滑なコミュニケーションが必要不可欠であり、監督・コーチの豊富な指導経験、研究心、優れたパーソナリティといったもの

が大きく影響してくる。従って、観察や会話による情報収集は比較的簡便であり、日常的に行なえる方法ではあるが、一方では不正確な情報しか入手できないという危険性も含んでいるのではないかと考えられる。

3. 種目類型別にみた傾向

本調査で得られた結果を種目別類型別に集計した。種目の分類は、個人的種目（陸上競技、競泳、弓道、スキー等）、集团的種目（バスケットボール、サッカー、バレーボール等）、相対的種目（柔道、剣道、テニス等）とした。ここでは技能的側面に関わる情報について取りあげ、考察を試みた。

図4は種目類型別にみた技能的側面に関わる情報の必要度を示したものである。各項目において種目類型間に差がみられるが、特に「動体視力の優劣について」、「ペース配分の巧拙について」、「対人動作（敵との対応）の巧拙について」、「連係動作（味方との対応）の巧拙について」、また「競技規則の理解度について」、「技術、戦術に関する認識度について」、「対戦相手の特性（対戦相手の技術、戦術、ウィークポイントなど）に関する認識度について」などの項目で顕著な差がみられる。「動体視力の優劣について」の情報に関しては、敵や味方の動きを常に注目していなければならない集团的種目や相対的種目が、敵との攻防というより個人のパフォーマンスの発揮が中心となる個人的種目より高い必要傾向を示している。また、陸上競技や競泳などのようにペース配分の巧拙が勝敗を決する場面の多い個人的種目が、「ペース配分の巧拙について」の情報で他の種目より高い必要傾向を示している。この事は、各種目によって必要な情報というものが異なっており、種目別に情報の種類を考えなくてはならないという本研究における今後の課題を示唆するものである。

4. コーチレベル別にみた傾向

調査対象の監督・コーチ45名をコーチ経歴、コーチ年数、チームおよびプレーヤーの成績などに基づいて3段階に分類し、コーチのレベル別の傾向をみた。分類に際しては調査用紙のフェースシートに記入させたコーチ経歴によって行なった。レベル3というのは、指導するチームやプレーヤーが全国大会において入賞し、全日本代表、選抜チームの指導を経験したことがある監督・コーチとした。また、レベル2は大学の大会等で入賞経験があり、全国大会の出場経験を持つ監督・コーチとした。レベル1はそれ以外の監督・コーチとした。

図5は技能的側面に関わる情報の必要度及び利用度についてレベル1とレベル3の監督・コーチの比較を表わしたものである。これによると、必要度については顕著な差がみられない。これはコーチのレベルというよりも種目の違いによる影響が大きいのではないかと推察される。しかし、利用度については必要度とは明らかに異なった傾向がみられる。レベル3の方がレベル1に比べて全体に高いパーセンテージを示している事がわかる。つまり、経験豊富な監督・コーチの方が情報をよく利用している傾向を示しているのである。このことは、競技力向上にとって、どのような情報が必要かを把握し、かつその情報をいかに適確に利用することが重要であるかを示唆しているものと考えられる。

ま と め

以上の結果と考察を要約すると次のようになる。

1. 身体的側面に関わる情報では、身体的能力や体格に関する情報と同様に、あるいはそれ以上にプレーヤーの健康面に関する情報の必要性が高かった。
2. 心理的側面に関わる情報では、競技の性質上、必要な情報と運動部という集団の中の

一員として必要な情報があり、両面からの情報収集が必要である。

3. 技能的側面に関わる情報では、プレイヤーの知識、認識の程度に関する情報の必要性が高かった。

4. 生活、環境、その他の情報では、非常に広範囲にわたる情報の必要性が示唆された。

5. 情報利用の傾向については各側面とも必要度の高い項目に準じて利用されている傾向がうかがえた。

6. 情報の収集方法については、観察やプレイヤーとの会話、面接が中心であり、このために監督・コーチの観察力やパーソナリティが重要な要因となるであろう。

7. 種目類型別にみた傾向ではそれぞれ特性があらわれており、各種目によって必要な情報が異なっていることがわかった。

8. コーチレベル別にみた傾向では、経験豊富な監督・コーチほど利用度の高い傾向がみられた。

以上のことが本調査によって明らかにされた。今回の調査では必要な情報の項目抽出という作業が大きな要点となったが、暗中模索の作業であったために終ってみれば不備な点が多かったように思う。しかし、この調査によって本研究を今後すすめていくための方向性というものが示唆されたと思う。今後はさらに情報の吟味、整理をすすめ、対象を拡大し、また、他チームの情報、環境的情報などへも着手していく必要があるだろう。こうしてコーチング情報というものを確立していくことは、コーチングにおいて有益な手助けのひ

とつになるものとする。

参 考 文 献

- 1) 猪飼道夫他, 種目別現代トレーニング, 大修館書店, 1968。
- 2) オゾーリン, N.G., 岡本正巳訳, スポーツマン教科書, 講談社, 1966。
- 3) Olsen Z Timmer, International bulletin of sports information, 3-4, 1982。
- 4) 勝部篤美, 桑野豊編, コーチのためのスポーツ人間学, 大修館書店, 1981。
- 5) 黒田善雄編, コーチのためのスポーツ医学, 大修館書店, 1981。
- 6) 高橋 彬, 藤田紀盛, 体育の解剖学, 日本体育社, 1974。
- 7) Broekhoff, J., Ways and means of organizing a system for the standardized collection of documentation in physical education and sport, 1980。
- 8) 前川峯雄他編, 現代コーチング, 体育の科学社, 1962。
- 9) 松井秀治編, コーチのためのトレーニングの科学, 大修館書店, 1981。
- 10) 松田岩男編, スポーツと競技の心理, 大修館書店, 1979。
- 11) 松田岩男他, スポーツマンの体力測定, 大修館書店, 1965。
- 12) 宮下充正, 大築立志, スポーツとスキル, 大修館書店, 1978。
- 13) ムーア, J.W., 松田岩男訳, スポーツコーチの心理学, 大修館書店, 1973。
- 14) ローサー, J. D., 松田岩男訳, コーチの心理学, ベースボールマガジン社, 1961。

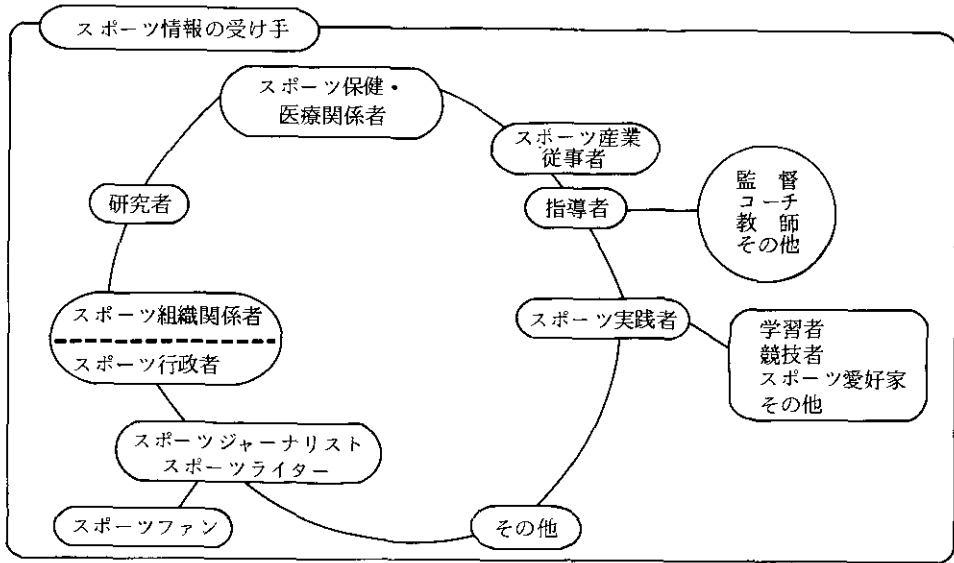


図1 スポーツ情報の受け手

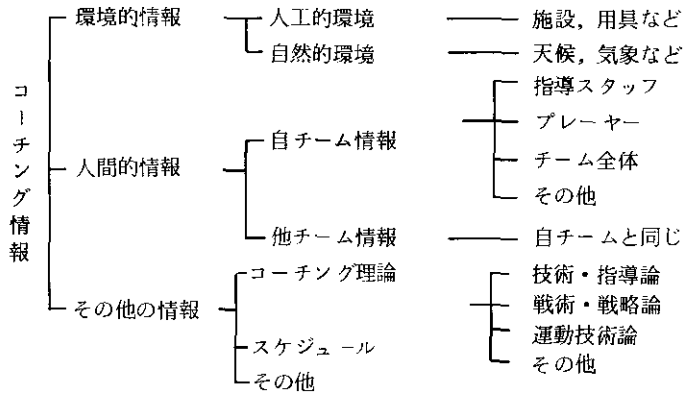


図2 コーチング情報の分類

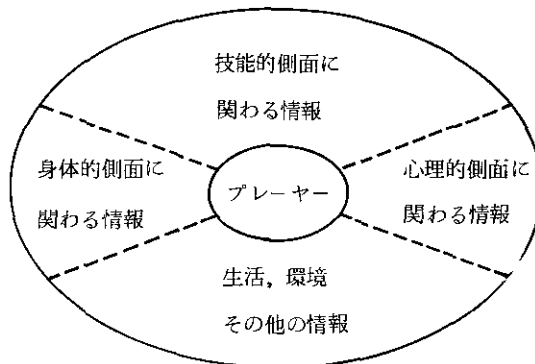


図3 コーチが受けとるプレーヤーに関する情報

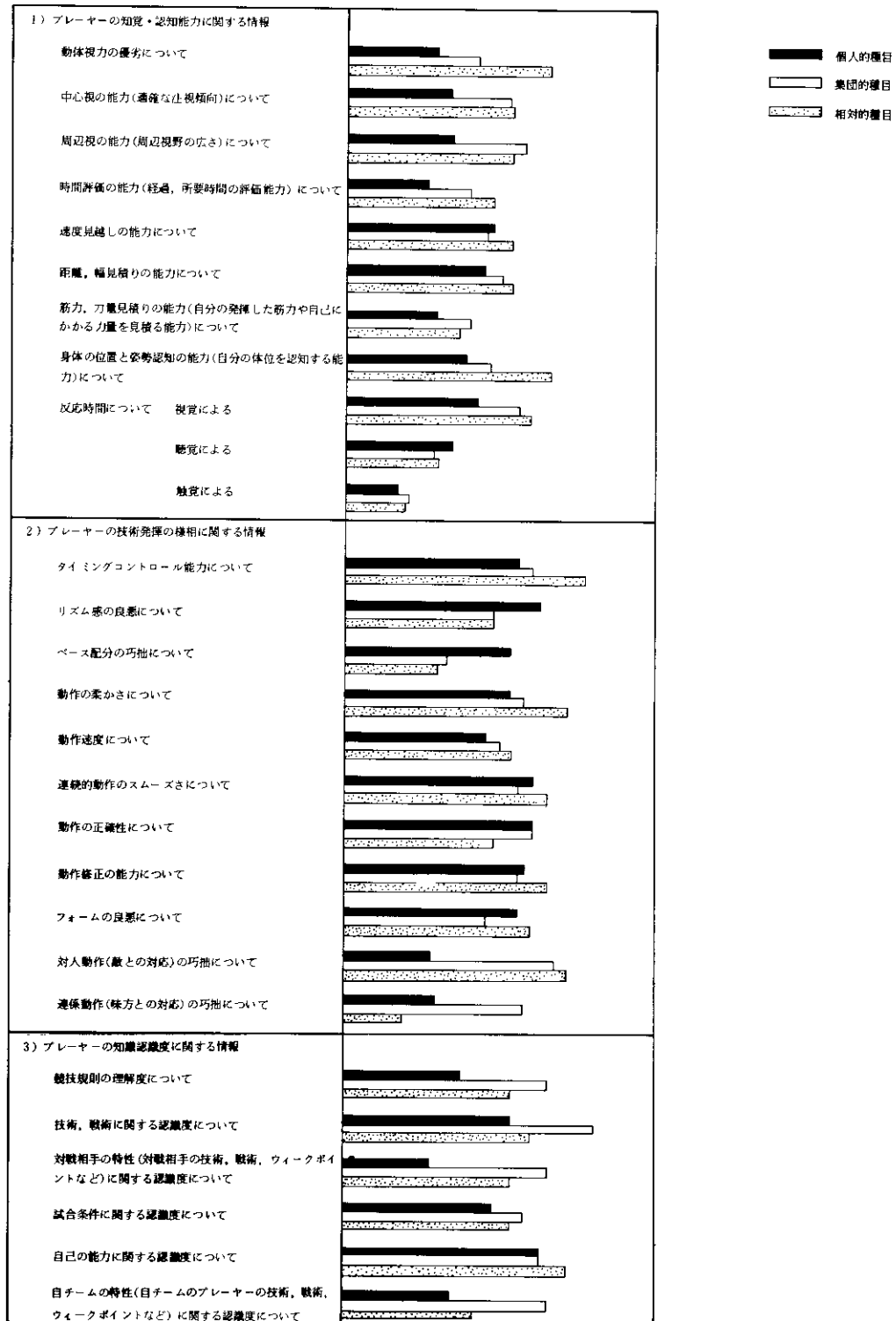


図4 種目類型別にみた技能的側面に関わる情報の必要度

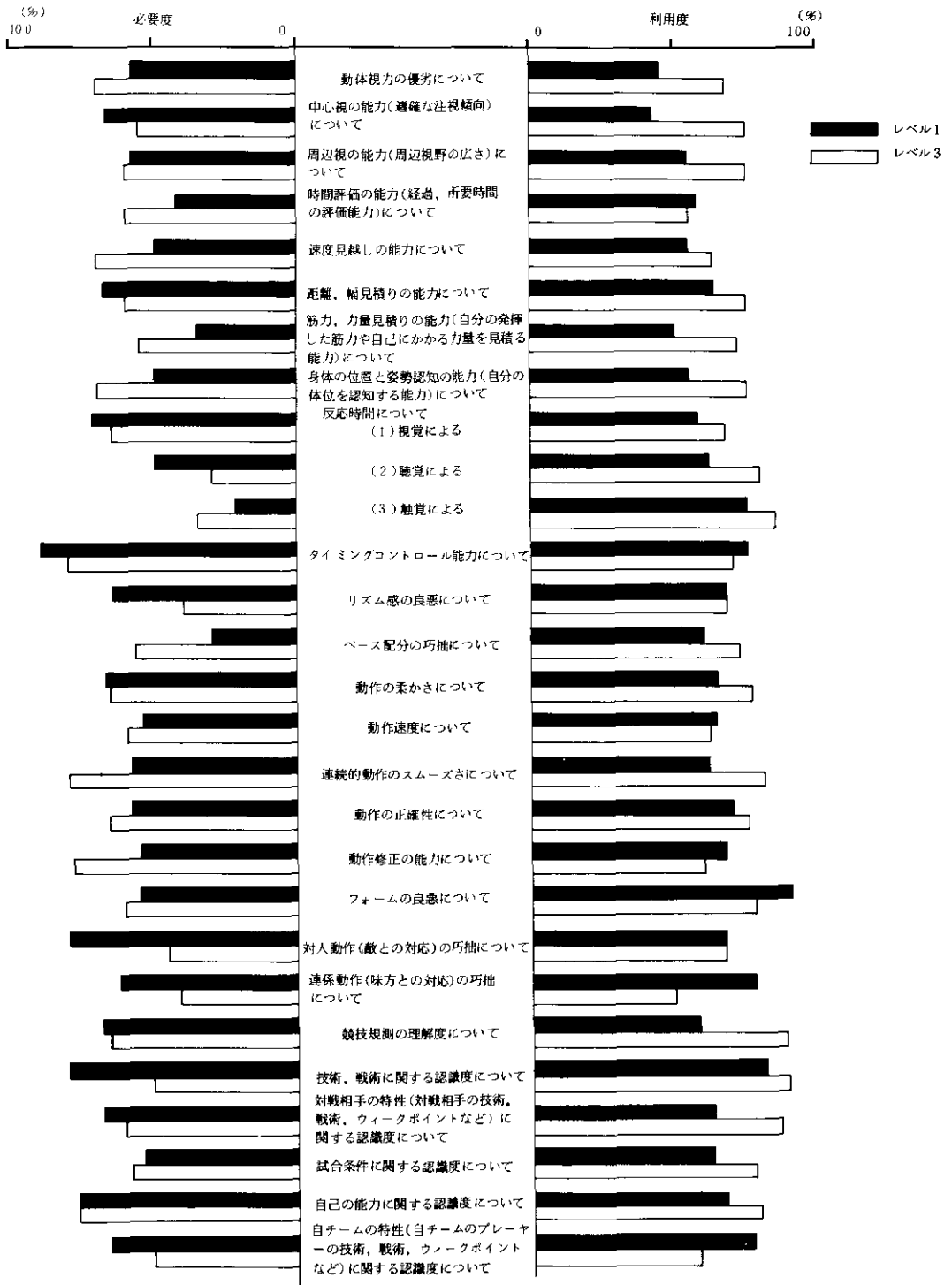


図5 コーチレベル別にみた技能的側面に関わる情報の必要度および利用度

表1 身体的側面に関わる情報の必要度および利用度

必要度		利用度	
項目	得点	項目	得点
故障の有無およびその箇所	6.6	大腿のパワー	3.5
疾病の有無およびその箇所	6.3	身長	3.5
背筋力	5.9	体重	3.4
敏捷性の優劣	5.8	疾病の有無およびその箇所	3.3
身長	5.7	背筋力	3.1
体重	5.6	敏捷性の優劣	3.1
大腿の筋力	5.5	跳躍力(垂直跳び)	3.0
現在の疲労度	5.5	大腿の筋力	2.9
巧緻性の優劣	5.5	上腕の筋力	2.9
跳躍力(垂直跳び)	5.3	既応症	2.8
大腿のパワー	5.2	走力(50m)	2.8
下腿のパワー	5.2	現在の疲労度	2.7
大腿の筋持久力	5.1	大腿の筋持久力	2.7
既応症	5.0	巧緻性の優劣	2.6
走力(50m)	5.0	下腿間	2.6
下腿の筋力	4.9	故障の有無およびその箇所	2.6
足首の柔軟性	4.9	腹筋力	2.5
現在の体調	4.9	下腿のパワー	2.5
上腕の筋力	4.8	下腿の筋力	2.4
腹筋力	4.8	上腕のパワー	2.4
		協応性の優劣	2.4
		現在の体調	2.4

表2 心理的側面に関わる情報の必要度および利用度

必要度		利用度	
項目	得点	項目	得点
リーダーシップ	6.3	責任感	3.3
持久性、忍耐力	6.2	課題解決欲求	3.2
勝利欲求	6.1	リーダーシップ	3.1
自己統制力	6.0	持久性、忍耐力	3.1
従順性	5.8	勝利欲求	3.1
对人的知能	5.7	自己統制力	3.1
課題解決欲求	5.7	協調性	3.1
責任感	5.7	従順性	3.0
気負い、力みやすい傾向か	5.7	对人的知能	3.0
決断力	5.2	気負い、力みやすい傾向か	3.0
動作的知能	5.0	真面目さ	2.8
真面目さ	5.0	動作的知能	2.6
自信	5.0	決断力	2.5
協調性	5.0	自信	2.5
内罰性	5.0	勤労欲求	2.5
言語的知能	4.7	身体的価値態度	2.5
躁うつ的傾向	4.7	身体的欲求	2.5
勤労欲求	4.6	言語的知能	2.4
信頼性	4.4	結果を気にしすぎる傾向か	2.4
身体的価値態度	4.3	寛容性	2.4
結果を気にしすぎる傾向か	4.3		

表3 技能的側面に関わる情報の必要度および利用度

必要度		利用度	
項目	得点	項目	得点
技術・戦術に関する認識度	6.2	フォームの良悪	2.9
自己の能力に関する認識度	6.1	タイミングコントロール能力	2.8
タイミングコントロール能力	5.8	自己の能力に関する認識度	2.8
連続的動作のスムーズさ	5.6	技術・戦術に関する認識度	2.7
動作修正の能力	5.6	動作の柔かさ	2.6
動作の正確性	5.5	連続的動作のスムーズさ	2.6
動作の柔かさ	5.5	動作の正確性	2.6
リズム感の良悪	5.1	動作修正の能力	2.6
試合条件に関する認識度	5.1	対戦相手の特性に関する認識度	2.4
対人動作の巧拙	4.9	リズム感の良悪	2.3
競技規則の理解度	4.9	動作速度	2.2
視覚による反応時間	4.8	競技規則の理解度	2.2
フォームの良悪	4.8	視覚による反応時間	2.1
距離・幅見慣りの能力	4.6	対人動作の巧拙	2.1
動作速度	4.6	試合条件に関する認識度	2.1
自チームの特性に関する認識度	4.6	自チームの特性に関する認識度	2.1
速度見越しの能力	4.5	中心視の能力	1.8
対戦相手の特性に関する認識度	4.5	距離・幅見慣りの能力	1.8
中心視の能力	4.4	身体位置と姿勢の認知能力	1.8
身体位置と姿勢の認知能力	4.4	ペース配分の巧拙	1.7
		連続動作の巧拙	1.7

表4 生活, 環境, その他の情報の必要度および利用度

必要度		利用度	
項目	得点	項目	得点
クラブにおける人間関係	5.1	クラブにおける人間関係	2.8
用具の使用、管理状態	4.7	一般的履歴 (氏名、生年月日など)	2.7
悩みについて	4.6	用具の使用、管理状態	2.6
一般的履歴 (氏名、生年月日など)	4.3	進路について	2.4
進路について	4.2	大学における履歴 (学年、学部など)	2.3
生活態度について	4.1	クラブ内での役割について	2.2
大学での学業について	3.8	悩みについて	2.2
クラブ内での役割について	3.7	高校時の運動歴	2.1
大学における履歴 (学年、学部など)	3.7	大学での学業について	2.0
高校時の運動歴	3.6	生活態度について	1.9
家族についての情報 (住所、経済状況等)	3.4	家族についての情報 (住所、経済状況等)	1.8
食生活について	3.4	大学内における人間関係	1.8
趣味、娯楽について	3.3	趣味、娯楽について	1.8
居住状況	3.2	服装の状態	1.8
服装の状態	3.2	交通手段	1.7
大学内における人間関係	3.1	食生活について	1.6
交通手段	2.9	居住状況	1.5
経済状況	2.7	経済状況	1.4
出身校における人間関係	2.1	保険関係について	1.2
家族との人間関係	2.0	出身校における人間関係	1.0

表5 収集方法

身体的側面に関わる情報	得点	技能的側面に関わる情報	得点
観察によって	4.3	観察によって	4.3
プレーヤーとの会話、面接など	3.9	プレーヤーとの会話、面接など	3.8
クラブで行なう測定、テスト、調査など	3.6	他の指導陣の観察、評価など	2.9
大学等で行なう測定、テスト、調査など	2.3	クラブで行なう測定、テスト、調査など	2.5
他の指導陣の観察、評価	2.0	他の部員の観察、評価	2.5
他の部員の観察、評価	2.0		

心理的側面に関わる情報	得点	生活、環境、その他の情報	得点
プレーヤーとの会話、面接など	4.3	プレーヤーとの会話、面接など	4.2
観察によって	4.2	観察によって	3.4
他の部員の観察、評価	3.1	他の部員の観察、評価	2.5
他の指導陣の観察、評価	2.4	他の指導陣の観察、評価	2.2
大学以前の指導者の観察、評価	1.5	クラブで行なう測定、テスト、調査など	2.0
その他の人々（協会、OBなど）の観察、評価	1.5		